稚新宮

特別
や
31

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31

ガラス使用

稚新宮

や
特別
31

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31

ガラス使用

宮城縣

こゞおほひ宮（此度）
○おくつび殿　屋の柔の御作
都加郡（ミヤギ）壬生のつる
たまはのかけ（井戸）守の屋の柔の
清城（ミヤギ）へ壬生よりつぐつゝめ（廿年）年より當（トヨウ）
清鎮（ミヤギ）まつる（參）の屋上るたびの毎
若宮雷神の御社のまゝ
つるゝよのこゝまでそ新
のを所をつゝまことのかぎ（上）
毎のまつも蕨（ワラ）ぶり佛（ホトケ）ぶり
つゝこと来（文）ゞ正（タヾ）ゝ

大正
5. 4. 21
購求

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31
ガラス使用

まほ―とのことをもちて天下を
よのまつりごと（任）をおさめて政事をたすけ
ぎたんこと（二近功）をもとめ（求）ざるなり
功をたてことをもとめざるの世の
いつまでもつづきまもるべき（守）
―よの事也

いざぎり（ほもごろ）経津神等を
外我の帰仏とまつてこそ
後ふべくば布る御教（勢）あり　垂仁天皇

御紀よ光皇雖（廿七）
根原以相留於枝（二）
以今世師（イマセシ）孫（マゴノミコト）尊（ミコト）
沙門寿命延長後天下大平云
ちの延を得ておのれ
こころびのにのごとづく
真の和（平）等一経（一）が帰仏
帰よの事をうけ（受）ざるべし
仲哀天皇い真の神ぬ一経（一）つづく神勅あり

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31
ガラス使用

…と給ひ御子なる神を祭り後に
この君を用ゐ奉り天皇早く薨(ミマカリ)行(ユキ)幸(ミユキ)
の神事をうて傾ける山岡神の事あれ
又この天皇の御代に天皇の御世
ならわくのめ一段ことごとくあり
りる

○そもそもこの 菅忠雲神と申奉る 御生祖
平元忠君のかけまくも忝(カシコ)き 貴(ウヅ)
東照大神君の御代(仕)まつり給ひて後見の

御機(ミキ)嫌うるはしくまします事(コト)と
おもふ事ありのまゝ利(トガ)なく
思ふまゝをもうしと猶(ナホ)落(オチ)て書(カ)き記(シル)すべく
あらぬ事のめきしをもて
神ぢう給(タマ)はりまた軍書(イクサブミ)数(アマタ)あるなかに
軍法傳(ツタ)へ給(タマ)ふ 息(ソク)長(チヤウ)詰(ツメ)て 机(ツクエ)をまいらせ
りる如くて著(アラハ)すのそもよ
ろこび給ふ事年(トシ)あるべきものぞ
なをそのまゝにてこゝに記(シル)し
なをそのまゝにてこゝに記(シル)し

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31
ガラス使用

君と友まとあそびまつりし事ども
あかつきの雲とつどひて妹と撰集
秋ごとの仲めぐりきて受まるの
年毎のうれしさを数へんかくてこそ
仲哥の作も
まさめかの 雲井の歌所 神君の御事を
うせ給へれその和魂 大神君の御身
一柱にて矢狗 勲績と隆化 光輝
まとゐ給ひて 御力 趣をたすけ給ふ

賜へと云一首の御哥とをのぼり
見そなはし神前の正遷と降
てあきつくるそそるこ
九日 御服をたまはりて参内の
とそ
の若 人の君もおもかげ
こまくらのそでひるかへす
のそでよ 陸奥のをさへ
いとおも だしくれまゆ

仰云爲て年年ま
まで豊廣が事あま　其の
ゆゑつゝあるをみるよそに
十日將軍中納言卿佐仰の旨
をうけたまはりて
北かまち二條ひやうぢ
とのゝまへにいとかしこく
旅衣立さめぢ
その世のことゝまありて仮名
ゆゑ

なつけてみる
ゝ

光の方の中まぐるもがな

和望雑英秋信

源実面のたとちへ
ゝ

ものゝあはれもたゞ
陶斗雲
ちぐさ
ゆゑ

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用

住持の妻を代として
田の狭田村なる富永仙八春初ごとに
ふて儀礼とそなる
それより作の間々それぞれの
きてとうのそれぞれの
かの事ごとそれぞれ
ようこてよう万久利ごとまで一
頃のやどりをれかもかくうまで
よまで義ごとれこてそれたら

年ぬ
ん
ん
ん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

御名を稚倭姫尊と申しまゐらせ
種々
さまざまに御もてなしまゐらせ給ひて
御帰の時に
仰せ給はく 仰せ畏みて
御末永く
守り奉らむ 仰せ給ひて
うるはしき
御衣を
賜ひき 仰せ畏みて
言須加田馬三つの文をやり
御あとづさとして
いにしへさまれる
ことのこころかあづて
うるはしき
御衣を
賜ひて 仰せ畏みて
帰途に
帰民の
竟姫尊
御室の八尋殿を
こぼちあらして
まの時に
これ
仰せのまにまに
殿の
名を
をごとをまをあらばめかし
牡ひところうくめでくうるはしき
御衣を
賜ひて
帰雲神
祝
まさんなもの
御名
稚
造
新
額
突

らめて真先の勇士さうの
雄と皆ゞ武雄の
事社を真下
とぐあうまうらめて
功勲
いさをきらいて五十人
風の先の帰
領をどー
ますり雄
そうまでも村
丈夫
ら承雄の我の帰
体息の
帰の村の
ますも
ますも
ますも

の数なりこれで服あり
なそそうこれでそうでありまたこれで
あそのそうそうまたまたこれで
以やらや我のものあいそれで我
○十名至後中根弘強助勝俵とも
なそもあみそうえ奏未
ほまのぼづく仰云修えられそうまた
強のなるの我なをらんとそ豊
るいそ仍そう田畑のある一
の義ありこそうとも雅そる社あり雄琴(ヲゴト)神社と
宮そう拳祖ハ全人(トより)数(ヨ)まことそう人この親まハ
天武天皇の皇子そて日本書紀(後者)
やどうようこうれバつぎ(後者)くまあそて母(ヒ)とそう仰
我ま申の時もこあれバ儀(神社)あの
清水のそれ(座)ふそのたどり(神社)くぎそうく
又ととのこまそれバやそ(頻)こまる
これがあるぐの終焉をも年(とし)
まやまそのくようことのもそ

式(ノリ)どもくさてうの儀
作法のごとくにて始終ありて後おそく
つまうつる
○十九日 氏子一統にて神供
備 大刀 備生馬 備備の式 作同前也のよし 備
つれまる まく 備 大刀後まで 参(キタリ)
屋の右の風折烏帽子 狩衣
袴(シタニギテ) 白紙 持(モチ)て 拝殿 の 前
まで 行(ユク) 右 御
備ぶつ〻 備祝詞(ノリト) の
まより 幸社 も 拝 て
りつゞきて 当 殿 の
古参年寄
のみにて
ここに
のまも
云々
備ぶつ〻 備祝詞(ノリト) の せ
ぬ 備 ぬ 備 ぬ
ぬ 備 ぬ 備 ぬ
ぬ 備 ぬ 備 ぬ

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31
ガラス使用

大まんま汚食(ミケ)ものも上(カミ)飯八るひ大佛(オホミホトケ)殿
並(ナベ)のごときの膳(ゼン)ごきを並(ナベ)あ名ありの魚(ウヲ)の
尾繕(ヲヅクロ)の長(ヒロ)き物(サカナ)を沖(オキ)つ藻(モ)へつ藻(モ)を山(ヤマ)る
甘菜(カラナ)辛菜(カラナ)まじえてそまでで千座(チクラ)ばかりの山
のごと(如)盛(モ)たるに(爾)てそのうえの生(イキ)ながら
奉(タテマツ)る
あるたてを遠(トホ)つ世(ミオヤ)の佛(ミイヅ)稜威(イヅ)もて佛子(ホトケノミコ)のおを業行(ナリワ)ば
かくいちも牲(ニヘ)あらねばみよ
うけまもそなはまもそくまします
佛心(ホトケノミコヽロ)の著(キヨ)く忠(マメ)なる佛(ホトケ)業(ワザ)
古(イニシ)きを右(ミギ)の佛(ホトケ)業(ワザ)と不(ナ)良(ヨカ)ら
のもの(物)ま(真)たぐそてあれがなすなく正
しくこの法(ノリ)をたぐ(ぶ)ま(真)ま石(イハ)ま石(イハ)ま百(モヽ)
ぐくもろ(諸)の(乃)ちもろく(諸)磐木(カツラキ)葉(ハ)
桜柱(ミスヒケタ)桁(エツ)蘆(ヨシ)葦(アシ)雀(ミソサヾイ)鷦鷯(ウヅラ)の
ちよろ千木(チギ)そそて簀戸(ミスノト)張(ハリ)佛(ホトケ)宝(タカラ)器(ウツワ)
こもりくよ造(ツク)りえ(得)てむ(牟)毛(モ)日(ヒ)のうよのちり日(ヒ)よ
ち屋(ヤ)の美(ウマ)のうち佛(ホトケ)張(ハリ)とり

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31
ガラス使用

ヨリ参入
拵えまつり候ニ付而ハ
ぞ（拝）てまつりたるものゝ（称）云ふをこゝめれバ我
あらしも侍まつるまゝに（称）
太祝詞（フトノリト）たゞ（称）まさしくも（退出）
いくゝの社も皆（悉）と（皆）
茶（奏）まうてらるゝまゝ（奏）
世まつるや

おとりやどりまつるみそぎ迄まつ秋の末なれバ
ゐらんとてぞ（ゐ）らるゝおほまぢ（ゐ）も言はれんちき

なとりまうさんと思ふまゝ（ゐ）
まりて一云二云和ぶるまうあんをうちとう
領布（ひれ）の事也扇短冊懐紙和歌色紙
ふ事也めりたるまゝ（ゐ）
うまつる人のありかたさよう
よ 棚倉家中有志可惜 と
からぐ（ゐ）
ゐ短後作法ぞの（ゐ）
こせらる（ゐ）

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31
ガラス使用

講釈るごて海老を突あり
ありくまもあらばとてくらもかし
事ありて麻布の方一軒毎のあるく
えあまでとりあれど我よりおそし
さるんと十年だり前よりの名の侍ぞ七年仕詞
とあり一軒毎かのあるくとて
いふうまでらざるまでおそよりも
うこの事ら所々侍廂まで
こまで用るきまするぐさ

人どもくもやあんとものあ
み用るきまするぐさ
るまつきそいうとも歌うえあ
表屋え門方とのの
山田景之助隆友と三人猪鹿垂
せるまで陸奥よりもあ
俗よりもおこせそり
りくまもあらねど毎
月ありくのこそも

あらそひなめてもあそびけめ
うつゞ一うのおそでもも雑毎と雑度
よりおこせてくれば隆友のるい
りさうこえあてこちたる話そうの
稚々
さくもてまつる雨も屋川舞多とあが李歳
まて松のそひうきうに住そうの
松村をあきり人の歌主人年な八年のそのこのを

女の須磨琴ひくをみのうち
琴のこのうねさきこうまて都うてなまま庵尾
夕設
ゆまけて帰婚のぼるぐ
をくまのぼりてをく
のうまくれが女うる話ざ
一うあるまうさうあ
川まて船の細ひう女来居
好うみて婦く舞く足
廿日まであのうきまで

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用

物ぞいでたつ庭ある

夕ぐれの木の葉ふりしく音ばかりして

五位

おりたつるみちだにもなし

少将

川原まで

師の親もとまでもそれまでは

うつろはねども

そでだに

師匠人

とうとまるほどもなし

師の

物ぞいでたつ庭ある

夕ぐれの木の葉ふりしく音ばかりして

五位

おりたつるみちだにもなし

少将

川原まで

師の親もとまでもそれまでは

うつろはねども

そでだに

師匠人

とうとまるほどもなし

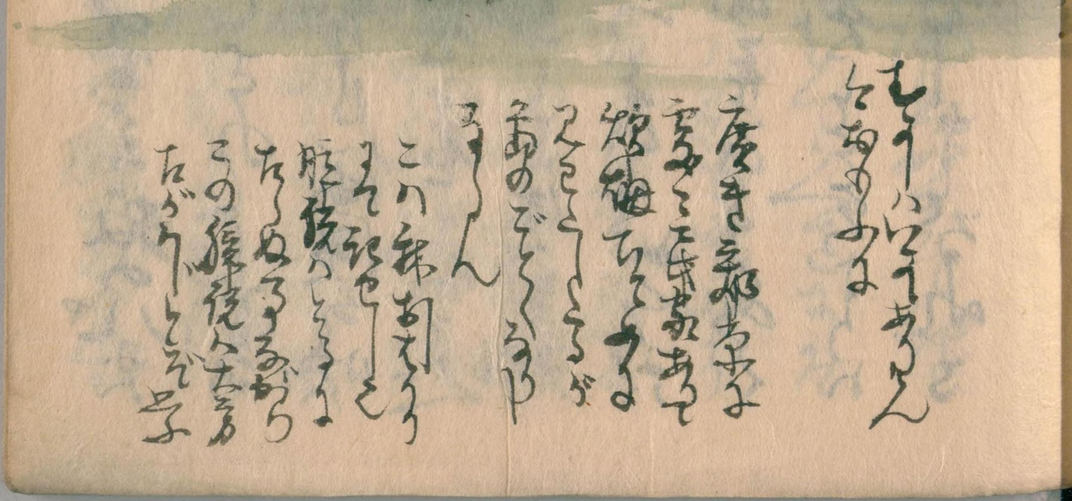
国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31

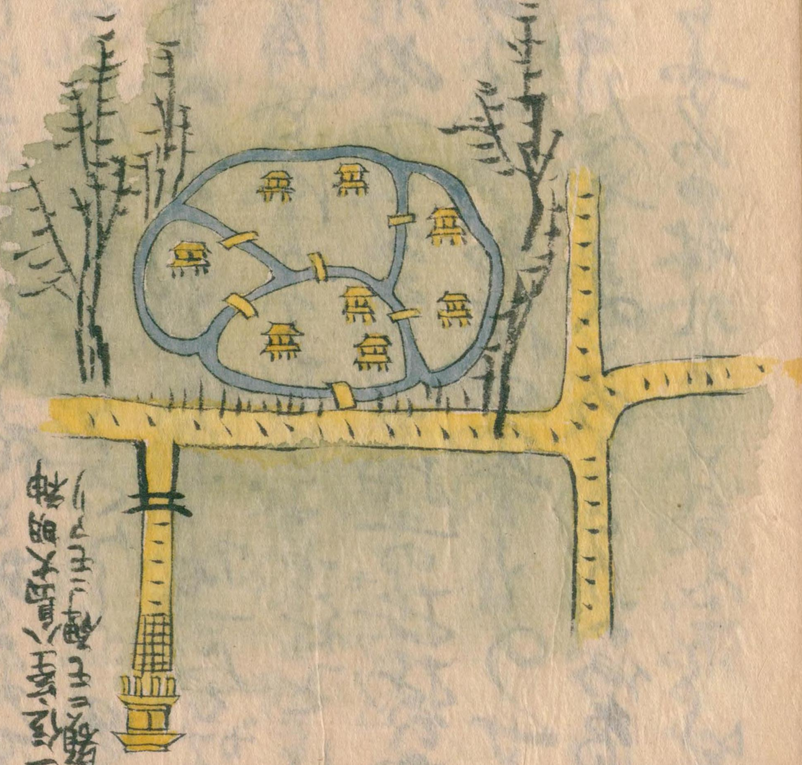
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用

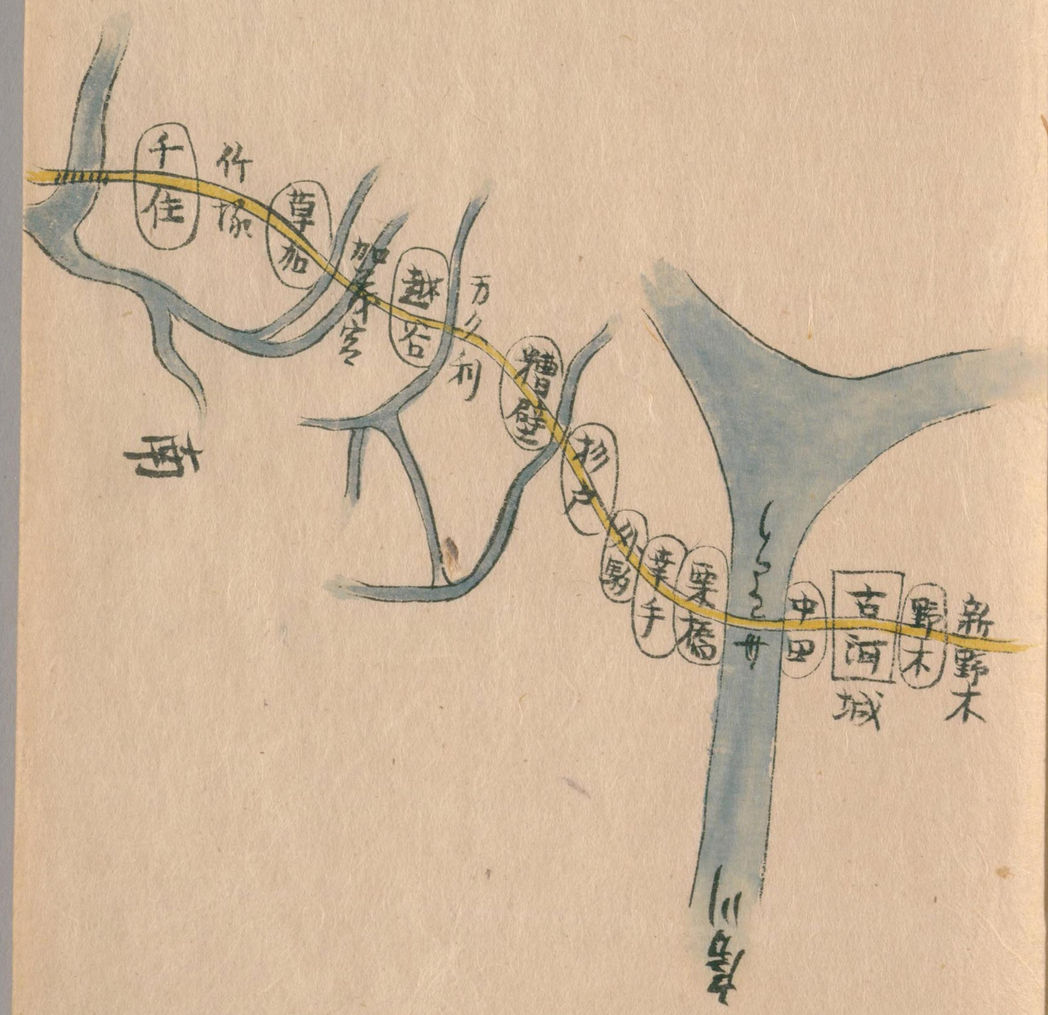
ぐりハ男ら心よたちそそ
おつらん行宗」
こまそいこーが多よやどうあ
。共立る明なるまたやどうとまてか
るどでそその住よりうりたいまで
住川恒老尚店を友回を中国
らめとうあやくよろうとうる
うるきとそのいこづきさこそと
面のこう紙回をーにてうり

てとうれてそろよ西田美方村氏保衛
距こまそ耳ゆをとうまの方
まで行そくこうとうすて
うんてほくられき走るう
本様千のへ口まて女のもま孫の
もそそそてやそこんのまあ
ううつまあるハ未のせぐうこそ
まーのぐう
人の方の男の帰
んのまの女方こうもるのよ

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用



三河
三河
三河

や
特別
31

国立国会図書館　タイトル『稚新宮』 請求記号 や-31

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『稚新宮』　請求記号　や-31

ガラス使用